



仲間が
ふえたぞ

としょえもん

一学校図書館サポートだより 第2号(通巻10号)

読書に親しむきっかけづくりを

～学校図書館支援にサポーター派遣を試行～

統括指導主事 山本 武

本年度、八王子市教育委員会では2学期から試行的に市内小・中学校17校に司書資格を有するサポーターの派遣事業を展開していきます。この事業は学校の図書館運営を支援し、子供たちの読書活動を推進することを目的としています。本事業を展開していく中で子どもたちがますます読書に親しんでくれることを期待しています。

さて、夏季休業中にも学校から課題図書 of 宿題などがあり、子どもたちは本に触れる機会が多かったのではないのでしょうか。各学校でも子どもに本を読むきっかけを与えるために、学校生活の中で全校一斉読書活動を行っているところが多くなっています。平成22年度の文部科学省の調査では、小学校では96%、中学校では87%を超える学校が一斉読書の時間を設定しているようです。本市の多くの小中学校でも朝読書などの一斉読書に取り組ん

でいます。読むことを強いられるとなかなか意欲的にはなれないものですが、一度読書から多くのものを学んだり、感じ取ったりすることを体験すると読書の意義を理解し、その習慣が定着するようです。他市のある学校では、東日本大震災の被災地に子どもたちが各家庭から持ち寄った書籍にメッセージを添えて贈呈する活動を行ったことで、本がもつ魅力を再認識し、校内の読書熱が高まったという報告を聞いています。読書は自主的な行為ではありますが、やはり、何かきっかけを与えることで、子どもたちの本に対する姿勢は一層前向きになるのではないかと考えます。

秋の夜長を迎え、読書をするのに適した季節になります。家族で読書に取り組み、家族で読んだ本について語り合ってみるなど、何かきっかけをつくり、本の楽しさをご家庭でも味わってみてはいかがでしょうか。

図書の検索が便利に！

9月より、市内すべての小中学校と、八王子市立図書館をネットワークで結び、学校図書館の蔵書の検索ができるようになりました。各学校の図書館には、専用のパソコンが設置されています。『どんぐりと山猫』『宮沢賢治』というように、タイトルだけでなく、著者名での検索、また『昔のくらし』『環境』『修学旅行』というような授業で扱うテーマ、学習件名での検索も可能になり、今まで以上に学校図書館の授業での活用が期待されます。「この本は学校にあるのかな?」「かまきりはいくつ卵を産むの?」「仕事について調べたい」子どもたちの興味や疑問、探究心に応える環境作りを、これからも目指していきたいと思えます。学校図書館蔵書検索システムの稼働は、その足掛かりとなる大きな一歩になることでしょう。

平成24年度 研修会報告

夏のパワーアップ研修会（一般教員対象）

7月26日（木）

『学校図書館を活用した調べ学習の実践』

於 中央図書館

今年も「学校図書館を活用した調べ学習の実践」をテーマに講師の蔵元和子先生の全体での講義の後、五つのグループに分かれて研修を進めました。各グループの大テーマに関して思いつく事柄を付箋に書き出し、似たような内容をグループ化することから始めて、自分が調べたい個人テーマを決定。その後、研修会場の中央図書館蔵書から資料となる図書を借り、資料中に出てくる知りたかった情報を記録カードにまとめていきます。このカードを全体の構成を考えながら台紙の上に置き、カードの情報から気づいたことやわかったことをまとめます。これをもとに効果的な伝達を考えて、表現方法の工夫をしながら発表作品として完成させました。完成後はできた作品をみんなで見合いました。一連の作業を通して学んだことは、「調べ学習の3つの柱」①課題の把握②情報の収集③まとめと伝達の方法でした。今年度は、アシスタントの現役中学校教諭の方からご自身の実践についてお話いただき、特に③まとめと伝達の資料として参考となる生徒作品をたくさん見せていただきました。

研修終了後、参加された先生方からは、「調べ学習の進め方がよく分かり、大変参考になった」「様々な教科で取り入れることができると強く感じた」「調べ学習を効率的に行なうために必要な準備がよく分かった」「生徒の目線での体験で、内容や、時間配分の工夫についてよく分かった」「アシスタントの先生の中学校での実践紹介はとても参考になり小学校高学年でも活用できる」などの声が寄せられました。

付箋を使い、テーマから連想するものを一枚に集める



第二回司書教諭研修会 9月25日（火）

出席者 小学校 59/69 名 中学校 23/38 名

『学校図書館の活用を促進する司書教諭の役割と実務のポイント』

講義Ⅰ 司書教諭は太陽のごとく

講師：渡部康夫先生

長年に及ぶ実践の様子を、詳細な資料と豊富な写真をもとにお話いただきました。まず学校図書館の理念をしっかり押さえましょう。そのうえで児童や教職員、保護者が図書館に何を求めているかを把握しましょう。これらを検討して学校図書館運営計画を立てます。計画は学校全体の共通理解を得るうえでなくてはならないものです。こうして初めてバランスの取れた図書館整備と学習・読書活動への支援が可能になるのです。

このようにまとめてしまうと安易に理解したつもりになりますが、司書教諭の仕事は「北風」ではなく「太陽」のようではなくてはならないことに気づいたというお話に、渡部先生の実践の奥深さを思いました。学校図書館への人の配置について、「人がいないからできない、人がいるのにできないでは困ります」との言葉にも、顧みて己を思うところがありました。

講義Ⅱ 思いがあれば形ができる

講師：小寺美和先生

小寺先生は町田市立中学校に勤務する現役の先生。司書教諭としての長年の経験をもとにしたお話のキーワードは「中学生の読書事情」「自発的な朝読書…そのための教員の合意」「昼休みを楽しむ…ボランティアによる開館」「情報を教職員に伝える」「図書指導員、PTA、地域の支援を得ての図書館のリニューアル」「授業で使える図書館に」「知的好奇心の種を育てる図書館に」「図書館を活用する教科を広げる」「始まりはオリエンテーション…教員へ、生徒へ」「資料の豊かさ…アンテナを高く、資料提供にかける意気込み、こんな本もあるという声かけ、公立図書館との連携」等々。『学校図書館というステージの上で、生徒・教員・読書指導員やボランティアを結んで豊かな学びを生み出すのが司書教諭の役割。一人ではできないが、まず三人仲間を作る。思いがあれば形ができていく』というお話が印象的でした。

学校図書館活用重点校紹介 ～ その2～

平成 24 年度重点校 22 校の図書館を順番にご紹介しています。



<p>別所中学校</p>			<p>左：図書委員会の生徒、図書ボランティア部の三年生が、新刊紹介のPOPカードに挑戦中。 右：職員室前に飾られた生徒手作りの情報ボード。タイムリーな話題を選んで、図書室へ誘うアイデア展示。</p>
<p>梶田中学校</p>			<p>左：ボランティアさんが選んだ、図書室おすすめの本コーナー。手書きの紹介カードを添えて展示。 右：用務主事さん手作りの書架。収納場所に困っていた超大型の画集もスッキリ収まります。</p>
<p>由井第一小学校</p>			<p>左：部屋の真ん中にあった低書架をはずし、すっきりしたレイアウトに変更。先生と、ボランティアさんの共同作業。 右：秋の壁面装飾。かわいい動物たちが、リニューアルした図書室の入口で温かく迎えます。</p>
<p>宮上中学校</p>			<p>左：書架の整理をして場所を確保、書架不足を補うブックトラックが新着図書を待っています。 右：超大型本をカウンターの後ろに配置しました。</p>
<p>東浅川小学校</p>			<p>左：バーコードシールを貼付した図書の背ラベルをボランティアの皆さんできれいに貼り替え作業中。右：調べ学習用図書の部屋。古い図書を抜いて探しやすい配架に工夫しています。</p>
<p>横山第二小学校</p>			<p>左：大改造初日、暗くて本を探しにくかった奥のスペースをカウンターの設置場所にするための作業。 右：書架を明るく広いスペースへ移動しました。</p>

本が好き！

このコーナーでは本の紹介をしていきます。

今回は、第二回司書教諭研修会で講師の先生より紹介があった本です。

表紙画像の利用は出版社の許諾済です



	<p>『だいすきなほんくん』 クリスティン・オコンネル・ジョージ文/マギー・スミスえ/ 山口文夫やく/評論社 年度始めに本を大切に扱うことを指導しますが、このときに必ず読み聞かせる絵本です。本をプレゼントしてもらったぼくが、本と仲良しになって生活していく様子が生き生きと描かれています。</p>		<p>『続 岳物語』 椎名誠 文/集英社文庫 「岳物語」の続編であり、両作品とも椎名の長男岳くんをモデルとした小説。ほのぼのとした中に、子どもの日常や成長が描かれています。子ども、大人、それぞれに楽しむことができる一冊です。</p>
	<p>『お米は、なぜ食べあきないの?』 山口進 文/アリス館 毎日食べているお米。いくら好きでも毎日同じお菓子はたべられない、どうしてお米は飽きないんだろう、という素朴な疑問からスタートし、お米のルーツや主食の謎、世界のお米について調べていきます。調べるプロセスがわかる本。</p>		<p>『心のおくりびと 東日本大震災 復元納棺師〜』 今西 乃子 著 / 浜田一男 写真/ 金の星社 東日本大震災で遺体を復元するボランティアを続けた納棺師、笹原留似子さんの姿を追った、児童書です。遺族の悲しみに向き合い、心に寄り添った150日を綴っています。</p>

図書館へGO！ 《ブックリスト》

ひと口にブックリストといっても、書物として公刊されているものから公立図書館が作成しているものまで多種多様です。今回紹介するのは、学校が自校の生徒向けに作成し、読書推進に活用している貴重な実践例です。

市立松が谷中学校では、今年の夏休み前に『知のワンダーランド』という素敵なネーミングの推薦図書リストを作り上げ、全校生徒に配布しました。テーマ別にリストアップした書籍数は学校図書館蔵書を中心に100冊、それぞれに通読難易度レベルやワンポイント紹介文が付され、生徒が自ら書き込む読了年月日やおすすめ度、一行感想欄まで付いています。またこの冊子には図書館利用案内をはじめ、生徒が自ら選択して読んだ書物の記録欄があり、まさに生徒個々人の3年間の読書記録としても残せるよう編集されているたいへん優れたものです。

ブックリストは子どもたちを「知のワンダーランド」にいざなう道標です。しかもそれが学校の校長先生はじめすべての先生方、生徒代表としての図書委員、そして日頃から学校に協力を惜しまない図書ボランティアの方々の総力を結集して作られたものであることに、かけがえのない意義を感じます。夏休み前の図書館の活況ぶりはもちろんのこと、冊子を持ち帰った生徒の家庭で「この本、お母さんが中学生の頃読んだよ」といった家族対話が生まれたといった反響に、その真価が表れているように思いました。膨大な数に上る刊行書物の中から、子どもたちに読ませたい本と子どもたちが読みたい本のはざまを斟酌して、100冊の本を選び抜くのは決して容易な技とは思えません。でもそれをクリアして作り上げられた松が谷中学校推薦図書リストだけに、同校の今後の読書推進に果たす効果は計り知れないものがあると期待しています。

(さらに詳しいことをご知りになりたい方は、松が谷中学校ホームページをご参照ください。)



松が谷中学校
ブックリスト

平成24年度第2号
10月19日発行
(通巻10号)

八王子市教育センター 学校図書館担当

連絡先 電話 042-664-1135 / FAX 042-662-2988

住所 八王子市散田町2-37-1

教育センター アドレス: b300700@city.hachioji.tokyo.jp